

貫下三貫初入賊黨之謁贊也云々予又舉昨日鹿苑院主說而告之曰盜賊中有隱語曰止陽曰合沫曰錢湯錢湯者不論貴賤各領所盜曰合沫者諸賊等分其財曰止湯者不論多少所盜歸賊中首也  
〔兔園小説二〕隱語

盜賊の隱語とてある人のかたれるは土藏を娘といひ犬を姑といへりたとへば其の所によき娘あり見ずやといへば一人の賊いへらく玄かなりおのれさいつ頃ゆきてあたり見んとおもふに玄うとめのいとやかましよういひければ折わろしとおもひてやみぬなどいへるとぞこれは作りまうけしものにもやあらんかしされどこれらの事あへてなき事ともいひがたし下略

〔徒然草上〕柳原の邊に強盜法印と號する僧ありけりたびく強盜にあひたる故に此名をつげにけるとぞ

〔黒田故郷物語〕中間の内盜をえたる者有頭共申上けるは是々の盜みを仕候間擲置申候御成敗なされ可然存候由申けり如水聞て首取事はいらぬ事ぞ早々追出せと被申ければいやく度度の事にて候間此者は是非共首を被刎候へかしと申せば上々の事也度々盜みませば能々盜人に生付たる者可成急て追出せ先々にて定て盜し重ての主に斬せよ第一己めが仕業は度々盜をするを知らば何にしに今まで置たるぞ一度にても合點の可有事ぞと玄たか叱られたり又有時作事の奉行にこけら又用に立ぬ木の切などを念を入取集め風呂屋へ渡せと被申付候へばこけらは大工が取申候其外は長屋の者共盜候に付少も無之と申せば玄たか腹を立こけら盜人を捕へがらめよ首を可切と稠敷被申付ければ此奉行心に思ひけるは慈悲深く物毎和成によりケ様の法度も玄まらず候幸の事と思ひ心を付見候へば其晩にはやこけら盜人を見逢がらめ候へば草り取也主人迷惑に思ひ人を頼み色々様々侘言を仕候へ共堅被仰付